

桐光学園
中学・高校
(神奈川・私立)

フェイスブックを使った積極的な情報発信で 保護者との距離を縮める。 20人の教員が自らの判断で投稿可能に。



校長
村上冬樹先生

学校data
1978年創立／普通科／生徒数2939人(男子1927人・女子1012人)／進路状況(2015年3月実績)／大学444人・短大2人・専門学校2人・就職1人・その他110人

受験生の保護者と 在校生の保護者への情報提供

桐光学園中学・高校は男女別学を基本とする中高一貫校。男子と女子は別の校舎で学ぶ一方、学校行事、生徒会活動など協力しあう場も用意されている。目指すのは、どのような場面においても思いやりの心を持ち、人のために進んで動くことのできる「次世代のリーダー」の育成。また、「自分で考えること」「自分の考えを他人に伝えること」を、中高6力年のすべての教育活動の中で大切に実践している。

これら私立らしい独自の教育理念について、まず学校がアピールしたいのは、受験生の保護者ということになる。受験生の保護者に向けた学校説明会で、何度も教育理念について話をし、生徒の成長を保護者とともに見守っていくことを約束する。

「しかし、そうして十分に理解していただいたうで入学してくるのだからと、入学後の保護者への情報提供がおろそかになってしまっていないだろうか。入

管理職のチェックなしで 先生方が記事を更新

学後の生徒の保護者に対しても、入学前と同じようにアピールし続け、保護者と学校が常に手を取り合う雰囲気を作っていくことが必要なのではないだろうか、と最近では考えています」と、村上冬樹校長は言う。そんな中、学校が「facebook(以下FB)」を通して発信する情報が、保護者に学校に対する信頼感を与える効果を発揮しはじめている。

村上校長がFBに注目したのは5年ほど前のこと(当時は教頭)。インターネットにおける学校のリスクマネジメント支援会社が主催する研修会において、FBはリスクが少ない情報発信ツールであると聞いたからだ。FBで学校のアカウントを作り、情報を発信する。原則としてFBに実名で登録している人が読み、たいいていの場合「イイネ」ボタンを押すだけなので、いわゆる「炎上」などのトラブルが少ないという。

とにかくアカウントを作り、難しく考えずに、学校行事、部活動などの報告

を挙げていったという村上校長。最初に同校のアカウントに気づきフォローし始めたのは卒業生たちだった。そのうち、在校生や保護者にも広がりを見せていくことになる。

「学校の活動を報告するのに、ネットの場合は誰に向けてのものなのかをあまり意識しなくても大丈夫です。例えば在校生の保護者が読んでくれていながら、受験生の保護者にもやがて広がるし、卒業生の口コミ効果もあるでしょう。もともと学校の評判は口コミによるところが多いものを、ネットでさらにその効果が広がったと考えています」と村上校長。現在では同校のFBは数日に一度更新され、情報をフォローしている人は3500人を超える。

FB、ツイッター、ブログなどのネットによる情報発信はとかく続かないケースが多い。同校のFBがここまで続いた理由を村上校長はこう分析する。「どんな協力者を増やしていきたい、協力者である先生方には管理職のチェックなしで更新してもらっています」

FBで情報をアップする先生は村上



桐光学園中学・高校のFacebookのホーム画面。およそ3500人のフォローがある。校長をはじめ、約20人の先生で運営。ときどき保護者や卒業生からのコメントも入る。

取材・文／永井ミカ

学校の教育方針・目標

● 目指す生徒像

次世代の新しいリーダー、真の人格者

● 長期ビジョン

人が生涯学び続け、他者とともによりよく生きていくために最も基本となるスキルは「自分で考えること」「自分の考えを他人に伝えること」「考えること＝書くこと・表現すること」をすべての学びの基本と考え、その習得を6年間すべての教科・行事・活動において実践する。

● 特色ある取り組み

男女別学／大学訪問授業(年間20講座)／講習制度(年間約600講座)／英語脳の育成

保護者への働きかけ



伝える

- Facebook (数日に1回)
- 学校HPの行事報告
- 総会 (年1回)

つなぐ

- 学級保護者会 (年4回)
- 部活動保護者会 (適宜)

協働する

- 大学訪問授業 (年間20回、各学問分野で活躍する大学教授を招いての授業。スタート時は大学で教える保護者に依頼して開催していた)



保護者の視点から

保護者会役員 高校3年生の保護者 渡辺敬子さん

オープンな雰囲気が
学校への信頼感につながります

うちは男子なので、中・高校生ともなると、なかなか学校での様子を話してくれません。学校が発信してくれる日常の情報を楽しみにしています。特に、スキー教室やサマーキャンプ、カナダ旅行の際、1日1回程度ですが、FBや学校HPからリアルタイムで現地の様子を送られてくるのは安心できました。簡単な記事ですが、楽しそうな様子が伝わってくるだけでもうれしいものです。また、自分の子どもとは関係なくても、さまざまな部活の活躍ぶりは見ていると熱くなりますね。

小さなことですが、こういったことの積み重ねで学校への日頃の信頼感は増していくと思います。体育大会や文化祭も生徒主体の学校なので、いつ勉強するのだろうと不安になったこともありました。けれども、信頼してお任せしているうちに、いつの間にか受験に向けて始動していたという感じです。学校で自習するからといって、朝6時に登校していく息子を見ていると、面倒臭いよさに感謝ばかりです。情報を発信し続けるオープンな雰囲気が、家庭にもいい影響を及ぼしてくれていると思います。



簡単な写真と簡単な文章。校長が自ら投稿するほか、一般の教員も管理職のチェックはなしでタイムリーに記事を上げる。それが長続きのコツ。



一方で実際に保護者と接する機会として、同校では年に4回、前後期の中間・期末考査の結果を保護者に直接手渡ししている。その際に、父母会の総会、クラス懇談会、また部活の保護者会を行うことも多いので、8〜9割の保護者が指定の日に来校。原則土曜日開催といつかで父親の参加率も高い。

保護者と同じ目線で
生徒をサポートしていきたい

校長も含め20人。修学旅行や部活の試合などの前には、村上校長から担当の先生に更新を依頼しておく。そのほかは、校内の風景や部活や課外活動の様子、時には保護者の姿など先生方が自由に記事にできる。内容は「写真と簡単な文章を添えるだけ」にし、長々と書いたりしないよう意識しているそうだ。

「実際に保護者の方とお会いする場では、進路や学習面についての話に偏りがちです。本当は人間教育にもキャリア教育にも力を入れていることや、生徒一人ひとりの成長を見守っていることもお話ししたいのですがなかなか難しい。FBはそれを補完する役割も担っているのだと思います」と村上校長は言う。「当校のスタンスとしては、保護者と同じ目線で生徒をサポートするということ。生徒に勉強をしないといふ強要するのは何か違う。ではどうするのかというと、学校と家庭が手を取り合って、学習に集中できる環境を作り上げていくことだと思っています。そのために、情報発信を続け、学校を知っていただき、保護者とながっていくことが大切だと考えています」